ともだちいっぱい 一年生

津幡町立条南小学校１年　学年便り
２０２０年４月９日（木）



入学してからのこの数日，子どもたちは緊張した表情を見せながらも，張り切っていろいろなことに取り組んでいます。元気に返事をしたり良い姿勢で話を聴いたりと，素敵な姿をたくさん見せてくれて嬉しく思っているところです。そんな中，来週から１か月間の休校ということになり，残念な気持ちでいっぱいですが，５月にまた元気に会えるのを楽しみにしたいと思います。

小学校生活スタートの大切な時期ということで，学習面・生活面について，おうちの方にはたくさんご協力をお願いすることがあります。どうぞよろしくお願いします。

休校中の課題について

①音読・・・「うたにあわせてあいうえお」国語の教科書２２～２４ページ
②ひらがな練習プリント　３０枚・・・「ち，ね，あ，ん，え，う，お，り，し，か，さ，つ，る，き，こ，ま，ふ，た，わ，は，な，す，み，ら，て，ひ，へ，ほ，む，に」
③０～１０までの数字練習プリント　３枚
④なぞりプリント，国語の学習プリント　１２枚
⑤縄跳び

①音読について

学校では，読むときの姿勢や口の形，声の大きさについて指導をしました。<u>ゆっくりはっきり大きな声</u>で読めるように，励ましてあげてください。１年生は口を大きく開けて読んだり，文字と音を対応させ，「言葉のまとまり」をとらえて読んだりすることが大切です。上手にできた時はぜひ褒めてあげて下さい。

余裕があれば，教科書の他のものについても，音読の練習をしてみてください。

②ひらがなプリント ③数字練習プリント

明日の授業で，初めて「い」の練習をし，その中で，書く姿勢やえんぴつの持ち方，字形，筆順に気をつけて書くよう指導します。上記の「ち」～「に」については，おうちで練習をし，丸付け，直しをするところまでお願いします。鉛筆の持ち方は，国語の教科書１４ページに載っていますので，参考にしてください。筆順や字形で気をつけて見ていただきたいポイントについては，右面・裏面に書かれていますので，そちらも参考にしてください。ゆっくり丁寧に，とめ・はね・はらいに気をつけて書くように声をかけてあげてください。

④なぞりプリント，国語の学習プリント

なぞりプリントは，丁寧にはみ出さずに書けているか，見てあげてください。国語の学習プリントについては，冊子になった解答を配付します。

⑤縄跳び

カードを配布しました。体力作りのため，ぜひ，取り組んでみてください。

★プリントは，４５枚あります。平日，１日３枚を目安に取り組ませてください。
★<u>学習は，したことをすぐに見直すことで，定着率が高まります。お忙しいかと思いますが，休業中の課題については，おうちで丸付けをしていただき，直しまでお願いします。</u>

5月7日の　れんらく

もちもの　けんこうかんさつひょう，きゅうこうちゅうのかだい（ぷりんとをふぁいるにいれて），こくごと　さんすうの　きょうかしょと　のーと，さんすうぼっくす（まだのひと）
たいそうぶくろ，ますく，はみがきせっと，ぞうきん２まい（なまえをかかずに）

おしらせ　・こうつうあんぜんきょうしつが　あります。
・きょうから，こどもたちだけで　げこうします。（３じごろ　げこう）

１年生のひらがな練習

小学校でのひらがな指導は，正しい筆順で書くことを重視します。正しい筆順は，手の動きが自然で負担がなく，いちばんその文字を整えて書くことができる書き方の順番として定められています。

入学前にすでにひらがなを読み書きしているお子さんが非常に多く，中には，自分なりの筆順で書いているお子さんも見られます。正しい筆順通りにひらがなを書くように，ご家庭でも声をかけてあげてください。

漢字を学習するようになると，ますます正しい筆順の必要性が高まります。漢字を覚えられない，練習しても定着しない，というのは筆順を重視していないお子さんに多く見られます。正しい鉛筆の持ち方で，正しい筆順や「とめ」「はね」「はらい」などの区別をして，整った文字を書く習慣をこの時期に身に付けられるようにしましょう。

おうちの方が，お子さんの正面に向き合って座るより，横に座って，鉛筆の持ち方や筆順，文字の点画の方向（はらう向きやかたむきなど）をアドバイスしてあげると，お子さんも同じ向きでまねができ，正しく覚えられます。



正しく鉛筆を持つことの大切さ

ほとんどのお子さんが，入学前にすでに鉛筆を持って書いた経験があるようですが，正しい鉛筆の持ち方で書いているお子さんは大変少ないのが現状です。学習に対して意欲満々な１年生の入門期で，一生の鉛筆の持ち方が決まると言っても過言ではありません。



なぜ，正しく鉛筆を持てないと困るのですか？

１年生のうちは書く文字数も少なく，ゆっくり丁寧に１文字ずつ書く学習が主なので，持ち方が正しくなくても困らないかもしれません。しかし，学年が上がるにしたがって，１文字の画数や書く文字数も格段に増え，ある程度の速さをともなって書かなくてはならなくなります。このときに，持ち方が正しくないと，鉛筆がなめらかに動かなくて文字を整えて書けず，余計な力が入って疲れてしまいます。そのため，先生の言ったことをすばやくメモにとったり，時間内に長い文章を書いたりすることができなくなってしまうことがあります。それが「書くことが嫌い」につながることも少なくありません。

自分流の鉛筆の持ち方が身に付いてしまったあとに，持ち方の矯正をすることは非常に難しいことです。「ひらがな指導の第一歩は，正しい鉛筆の持ち方から。」と言われるのはそのためなのです。